

岡山醫學會彙報

岡山醫學會通常會

同會は豫期の如く本月二十一日午後三時十分より岡山醫科大學附屬醫院南臨牀講義室に於て開會す藤田會長開會を報じ直ちに左の演説に移る

第一席 筋肉收縮と溫度との關係

醫學博士 生 沼 曹 六 君

著者は先づ筋肉の延長性に及す溫度の影響に就ては攝氏十度より三十度迄の間に於ては同一重量に對する延長は溫度の高き程大なる事又負擔重量の遞減による延長の恢復は溫度の低き程完全に近づく事を述べ、此筋肉の延長性が溫度によりて異なることは筋肉の同緊張性收縮の高さに及す溫度の影響を研究するに當て毎に顧慮すべきことを注意し、又筋肉の收縮に及す溫度の影響は溫度の高き程收縮及弛緩の速度を速かならしむるにありて收縮の高さは全く影響を被ることなし、從來の成績にては收縮

の高さにも溫度が影響すとさせるは描寫槓杆の惰性能率及前述の溫度による延長性の變化を顧慮せざりしによるものなりとせり、猶筋肉の收縮波の傳導の速度に及す溫度の影響は頗る著しくして其溫度係數は略二―三の間にあり、又最小收縮を起す刺戟値を以て計れる筋肉の興奮性は溫度の影響を被ることなし之を以て著者は興奮性と興奮傳導性とを別つべからずとさせる一派の學者の説に反對せり。

同長性收縮の場合に於ても收縮時に發する最大緊張の値は溫度の影響を被ることなく即ち溫度係數零なり此事實は筋肉收縮の理論の上に重大なる關係あることを指摘し最後に筋肉收縮時に營み得る最大の器械的仕事の量に至りては溫度によりて異り、蛙の筋肉にては攝氏二十度に於て最大の仕事を營み得るものなりと云へり。(自抄)

第二席 茶及珈琲飲用後人體に於て「コフェイン」排泄の經過に就て

醫學博士 奥島貫一郎君

人尿中に排泄せられたる「コフェイン」の定量的證明をなすに、從來の化學的方法に據らずして、蛙筋を以てす

る生物學的方法を用ふことに依り、茶又は珈琲飲用後各時間に尿中に排泄せらるる「コフェイン」量を測定することを得、其成績に依り「コフェイン」排泄の時間的經過、利尿作用と「コフェイン」排泄量及尿中「コフェイン」濃度との關係、水分攝取又は水分缺乏と「コフェイン」排泄量との關係、「コフェイン」排泄經過の個人的差別の有無等の事項を攻究せり。(自抄)

右終りて午後五時閉會す。

原著紹介

(雜誌順序不同)

●醫事新聞(第一一〇〇號)

日本住血吸蟲症ニ於ケル「ヘルニア」囊結核ノ一例 (風間美顯)
原發性腺臟及十二指腸癌ニ就テ(承前) (黒澤左仲)

●醫事新聞(第一一〇一號)

細菌體ノ成分及其分解産物ノ免疫學的研究(一)
第一章 細菌「ソホイード」ノ免疫學的意義 (目黒庸三郎)
血清過敏症ヲ應用セル胃潰瘍發生ニ關スル實驗的研究 (加藤傳三郎、林敏雄)

●醫海時報(第一四六九號)

腎臟疾患診療ノ新見地(二九) (五斗欽吾)
肺ノ脂肪固定(Hipopexie)ト脂肪分解(Hipodierase)(中ノ一) (齋藤正意)
子宮出血ト其療法(其五) (今井環)
不規則脈ト強心劑(其四) (額田晋)

●醫海時報(第一四七〇號)

腎臟疾患診療ノ新見地(三〇) (五斗欽吾)
肺ノ脂肪固定(Hipopexie)ト脂肪分解(Hipodierase)(中ノ二) (齋藤正意)
子宮出血ト其療法(其六) (今井環)
不規則脈ト強心劑(其五) (額田晋)

●醫海時報(第一四七一號)

腎臟疾患診療ノ新見地(三一) (五斗欽吾)
肺ノ脂肪固定(Hipopexie)ト脂肪分解(Hipodierase)(下) (齋藤正意)